

大島みらい新聞 No.9

2013年11月28日発行



ごあいさつ～No.9の発行にあたって～

気仙沼市立大島中学校教頭 菅野 勝紀

総合学習のまとめとして行った文化祭でのプレゼンテーションは、3つの班のどれも素晴らしく、生徒たちがとても頼もしく見えました。また、その生徒の姿を温かな眼差しで見つめる保護者・地域の皆さんを見るにつけ、大島がもつ「地域の力」を感じました。発表を終えて、総合Iとしての活動は一区切りを迎えましたが、大島中の生徒たちにはこの「大島みらいデザインスクール」を一つのきっかけとして、たくましく未来を切り拓いてほしいと願っています。

「輝け！海とみどりの大島宣言」採択される

大島復興へ向けての島民の思いや決意を綴った宣言が、2013年11月4日（月）に開催された大島公民館まつり（演芸祭）の場で、採択されました。振り返れば、第3回の大島の未来を考える会（3月3日）で復興宣言の最初のアイデアを提案させていただき、その後、宣言の内容や文案も何度か修正を重ね、第5回の大島宣言を考える会（5月11日）では名称案への投票も行ってもらい、最終案に至りました。

名称は、「輝け！海とみどりの大島宣言」と決まり、大島の自然再生を謳った第一条から始まる5つの条文にまとめ、大島地

区振興協議会役員会での承認を経て、公民館まつりでの発表・採択となりました。大島の未来を担うにふさわしい2人の中学生に宣言文を読み上げてもらい、大島地区振興協議会の柴田会長から宣言の提案があり、満場の拍手をもって採択の承認をしていただきました。

宣言は、島民の皆さんが東日本大震災という壮絶な経験をしたことをけっして忘れずに、しかし復興へ向けて、また未来へ向けて、一歩ずつ歩み出そうという思いを内外にアピールすることに活かされればと思っております。復興に向けてのさまざまな局面で、島民の皆さんの共有する思いの

確認や復興理念の支柱としても、活用されていくことを願います。

そのためにリーフレットのサンプル版も提案させていただきましたが、先の大島地区振興協議会役員会で、正式に印刷作成することが決まったということです。来年早々には島内各所での配布が可能になるのではと思います。われわれ気仙沼大島みらいチームのメンバーも、海とみどりが輝く大島の復興が一日も早く実現するよう、願っております。

（関西学院大学教授 長峯 純一）



宣言を読み上げる中学生



宣言のリーフレット

（内側：条文全文）

（外側：宣言策定の背景、活用方法など）

69人の「大島みらいデザイナー」が描く、大島の未来



9月14・15日に行われた「大島みらいデザインスクール」を引き継いで、大島中学校の生徒のみなさんは「総合I」の授業の一環で、3チームに分かれて、大島の将来をよりよいものにする提案を考えてきました。そして、11月2日に行われた大島中学校文化祭「ステージ発表の部」にて最終成果発表を行いました。

さて、中学生たちはどんな未来を描いたのでしょうか？ 以下、各チームの提案です。

Aチーム 『島っこパンフ』



中学生の目線で見えた大島にあるたくさんの魅力を、より多くの人に伝えよう！をテーマに、朝日や夕日などが見える絶景スポット、おいしい飲食店、恋愛スポットに心霊スポット、危険な場所パンフレットを作成しました。

Bチーム 『亀山・小田の浜エンジョイツアー』



大島の魅力として亀山と小田の浜をあげて、アスレチックやウォータースライダーなどを新たに設けることで、より大島の自然を感じてもらえる提案をしました。さらに、少ない時間でも大島を楽しむように2泊3日のツアーも提案しました。

Cチーム 『ハッピースポット in 龍舞崎』



龍舞崎は、島民(特に中学生)からは、「暗くて怖い」「何もない」など、どちらかというとネガティブなイメージも持たれていました。そこで、龍舞崎をみんながもっと楽しめる場所にするために、いくつかの提案をしました。

コメント／寺内美紀子 (信州大学)

大島の魅力を伝えるということで、たくさんのスポットをパンフレットにまとめてくれました。「島っこパンフ」という名前が秀逸です。絶景ポイントだけでなく、心霊スポットや危険なところを紹介しているのも面白いです。みなさんが気仙沼大島親善大使となってこのパンフを配ってくれるとさらに良いのではないのでしょうか。

コメント／槻橋修 (神戸大学)

大島の自然環境を体験する学習プログラムの開発からはじまったアイデアでしたが、最後の発表で亀山と小田の浜の新しい空間イメージとしてまとめたことが良かったと思います。発表のために作った模型とその写真がリアリティがあって美しく、展示室でも空間を大胆に使ったリフトの展示などが印象に残りました。

コメント／福岡孝則 (神戸大学)

Cチームは魅力的な眺望があり、伝説もある龍舞崎に着目しました。評価した点は、きちんとした現状分析、敷地を活かしたカフェ / お土産屋やトロッコなどの提案のうまさです。そして詩的な模型表現やドラマティックなプレゼンにドキドキしました。今後はこのやり方で大島の色々な魅力を引き出していきたいですね！



発表

Aチームの発表の様子



発表・展示を審査する様子

審査



受賞式

優勝チームのメンバーは、大島ベストみらいデザイナーに認定される

賞状と賞品の缶バッジ

大賞を受賞したBチーム

総評／槻橋修 (神戸大学 准教授)

今回、新しい試みとあって中学生の皆さんが戸惑うかなと心配したのですが、3チームの提案と発表はどれも大島の未来をしっかりと見据えた頼もしいものでした。それぞれの提案は今はまだ着想段階ですが、どれも実現可能なアイデアだと感じました。実現には色々なハードルがあると思いますが、みんなの知恵を結集し、乗り越えていった先に必ず新しい大島が切り拓かれるでしょう。

前回みらいを考える会「防潮堤計画とその後」から

本 年4月4日付で、大島地区自治会連絡協議会（会長）名で気仙沼市長宛てに、「浦の浜、田中浜、小田の浜という大島の水産業・観光にとっての重要な地点については、少なくとも現行案を再検討していただくよう、またその他の港・浜についても、それぞれの地区住民の意見・要望を改めて十分に聴いた上で、事業を進めていただくよう」、そしてその旨を、「県・市の関係部課に要望・指示をしていただきますよう」、お願いする要望書が提出されました。しかしその後、県・市からは何の返答も参っておりません。

11月3日のみらいを考える会では、この間の動きとして、国（環境省）が三陸復興国立公園やグリーン復興といったことを提案・提唱し、大島をその中心に位置付けていること、この9月には日本ジオパーク委員会から三陸ジオパークが認定を受け、「悠

久の大地と海と共に生きる～震災の記憶を後世に伝え学ぶ地域へ」というテーマが掲げられ、気仙沼市も積極的推進体制をとり始めていることなど、話題提供をしました。

返答がないことに対して、再要望書を出してはどうか、ということで会は終わりましたが、その後、11月30日と12月1日に田中浜と小田の浜の防潮堤計画に関する住民との意見交換会が計画されているとの

情報があり、再要望書を出すどうかは意見交換会の場まで持ち越すことになりました。

他の地区の意見交換会では、住民から反対意見が出なければ住民は同意しているとみなす、という県担当者からの回答があったとも伝え聞きます。意見交換会の場では、島民の皆さんが考えている意見をぜひ行政に伝えていただきたいと思います。

（関西学院大学教授 長峯 純一）



大島宣言Tシャツ販売中!!!

S/M/L/XL 各 ¥1000-

大島宣言Tシャツをお求めの方は大島公民館までお尋ねください。

次回のお知らせ：

第10回 大島のみらいを考える会

テーマ「震災遺構と継承」

日時 | 2013年12月15日(日) 13:30～16:00

場所 | 大島開発総合センター2階

大島みらい新聞 No.9 2013年11月28日発行

企画・制作・発行 気仙沼大島みらいチーム
 編集長 長峯純一（関西学院大学）
 協力 大島地区自治会連絡協議会
 気仙沼みらい計画大島チーム
 写真 藤井達也
 デザイン 山田恭平、山本十雄馬、磯谷二郎、
 関目峻行、島田克彦、鈴木陽子
 磯谷二郎
 お問い合わせ Mail: jiro.isogai0246@gmail.com

大島として残すべきもの。



第10回大島のみらいを考える会 「震災遺構と継承」

- ・気仙沼市の震災伝承検討会の議論について
- ・阪神淡路・中越の事例等の紹介など

防潮堤意見交換会のまとめ

- ・行われた防潮堤意見交換会の報告
- ・今後の対応をどうすべきか

日時 | 2013年12月15日(日)
13:30～16:00

会場 | 大島開発総合センター2階

共催 | 気仙沼大島みらいチーム、
大島地区自治会連絡協議会

**参加
無料** **予約
不要**